

足立区議会 自由民主党

討論者



工藤 哲也 委員

平成30年12月の月例経済報告によれば、「景気は、緩やかに回復している」としており、当区の経済状況については中小企業の状況において多くの業種で厳しさが和らいでいるとされている。

こうした状況の中、平成31年度予算は「より強く、築こう。人生100年時代の礎」と名付け、超高齢人口減少社会にあつて、行政が果たすべき役割を見極めて区政運営を進めるとしている。

こうした観点から編成された本予算は特に「健康」「治安・防災対策」「子どもの学習環境整備」の3つの施策において新たな展開を見せていく予算となった。事業の中身を見ると、乳がん・子宮頸がん検診のワンコイン化・受診勧奨強化、胃がん内視鏡検診の開始、地域包括ケアシス

足立区議会 公明党

討論者



長井 まさのり 委員

区では、平成31年度予算案を「より強く、築こう。人生100年時代の礎」と名付け、特に健康、治安・防災対策、子どもの学習環境整備の3つの施策において新たな展開を見せていく等「人生100年時代」の礎を築くための予算を編成している。その予算規模は一般会計総額で2千866億円となり、5年連続で過去最大を更新することとなった。

予算内容は、健康施策では、乳がん・子宮頸がん検診・高齢者向け予防接種等の新たな助成の開始とともに、地域包括ケアシステムのモデル事業にしっかりと取り組んでいきたい。治安・防災対策では、地域BWAをスタートさせ、子どもの居場所確認や防犯カメラの一括管理等を実施、加えて避難所となる小・中学校体育館の冷暖房化も計画的に進める。子どもの学習環境

テムビジョンに基づく事業展開、登下校見守り体制強化、防犯カメラのネットワーク化等、地域BWA活用による治安対策、避難所となる学校体育館へのエアコン設置、学校ICT環境の整備、不登校の児童・生徒へのさらなる支援強化等々、目配りのきいたものとなっている。

なお、共産党から提出された修正案について、今後の長期的な区政運営を考えたものではなく到底賛成できるものではない。

最後に、予算特別委員会において我が党委員が指摘した、認知症対策、受動喫煙対策、協創の認知度上昇に向けた取り組み、各避難所運営における訓練内容の充実、商店街振興、進路未決定生徒への対策、私立幼稚園助成、綾瀬駅前整備、東京2020大会に向けた機運醸成、感震ブレイカー普及に向けた検証、北千住駅のまちづくり、教員の働き方改革等、様々な提案及び要望事項については本予算の執行と今後の区政運営に確実に反映するように強く要望する。

整備では、学校トイレの洋式化を進める一方、小学校英語の教科化や5年間で約42億円を投入し、学校のICT環境を整備する。未来への礎では、東京女子医科大学新東医療センターと文教大学東京あだちキャンパス建設をはじめ、綾瀬・北綾瀬、竹の塚、西新井・梅島のエリアデザインも新たな局面に突入する。まちの魅力を磨き上げる絶好の機会と捉え、推進すべきと考える。

最後に、本予算特別委員会では我が党委員から要望した高齢者インフルエンザ予防接種の無料化、防災減災対策、女性の健康施策、児童の虐待防止対策、幼児教育の無償化、プレミアム商品券の拡充、人と動物との共生等の提案や要望については重く受け止め、新年度予算の執行や、これからの区政運営に反映されることを強く求める。

予算特別委員会の討論(要旨)

委員長・副委員長

- 新井 ひでお 委員長
井 昭二 副委員長
浅子 けい子 副委員長



予算特別委員会の詳しい様子は区議会ホームページの委員会録画中継からご覧になれます。



委員の賛否

※自民…足立区議会自由民主党 公明…足立区議会公明党 共産…日本共産党足立区議団 立民…足立区議会立憲・民主の会 無派…無会派 ※○…賛成 X…反対

Table with columns for committee members (委員名) and various budget items (件名). It shows approval (O) or disapproval (X) for each item across different parties.

日本共産党 足立区議団

討論者



浅子 けい子 委員

新年度予算に、女性のがん検診のワンコイン化、高齢者インフルエンザ予防接種無料化や被爆者見舞金、知的4度の障害者への手当支給等に踏み出したことは賛同できるが、暮らしに寄り添った区民生活優先の予算となっていないため、賛成はできない。

平成19年度から29年度までに一般会計は511億円伸びた。これに対し基金の総額は30年度末で1千601億円となる見込みで、一般会計の伸びをも上回っている。

この根底には、包括予算制度のもとで区民の暮らしに回す予算を抑えてお金を余らせ、基金を積み増す姿勢が横たわっている。わが党は修正案を提出し、22の新規・拡充事業を盛り込むとともに、お金の使い方を変え、45万8千円を増額するだけで実施することができるとなっている。

区の行政水準・区民サービスは、23区最低や低いレベルのものがたくさんある。低所得者へのエアコン購入設置助成は実施せず、紙おむつ支給事業は23区で一番厳しい制度になっている。生活保護就労支援事業を包括委託し、区民のプライバシー侵害の恐れとともに過度の就労「指導」を行いかねない仕組みを導入しようとしている。

区長においては区民生活優先の区政運営に転換するよう求める。国民健康保険特別会計は、今年も値上げの見込みである。一人あたり3千186円、2.61倍の値上げとなり、到底認められない。介護保険特別会計は、低所得者への利用料軽減策を提案するとともに特養のさらなる増設を求めたが、区はやる気がなく、後ろ向きな冷たい姿勢は認められない。

後期高齢者医療特別会計は、軽減特別の廃止で2倍、3倍に上がる状況である。後期高齢者の45%の低所得者が負担増になることはとても認められない。

費を設け、逆境を乗り越える力を培っていくことは、我々会派が要望した施策でもあり、高く評価するものである。一方で、子どもへの予防接種費用助成等の子ども健康関連予算は手薄と言わざるを得ず、子ども施策の脆弱性が見えた。

足立区議会 立憲・民主の会

討論者



松丸 まこと 委員

平成31年度予算は「より強く、築こう。人生100年時代の礎」という名の通り、超少子高齢化社会に向けた、基礎とすべき様々な施策が織り込まれている。

75歳以上の「インフルエンザ予防接種費用全額助成」は、人生の先輩方への思いやりがある予算であり、また、生活困窮者を自立へ導くとして、一人ひとりの困難状況を把握しての自立相談支援や、就労支援等の予算配分は、区長のきめ細やかな、心を感ずる施策である。

さらにポトルネットの課題の解決に向け、子どもの未来を応援する施策を計画的になおかつ、確かな根拠に基づき全庁的に取り組んでいる姿勢は学識等からも高く評価されている。特に新年度予算においては、新たに「子ども未来応援枠」として政策的経

本予算特別委員会において、我が会派が指摘した、放火23区ワーストワンからの脱却、都立中川公園防災拠点化への取り組み姿勢の反省と改善、風しん対策、子どもへのインフルエンザやおたふく風邪予防接種費用の助成等を強く要望する。貧困の連鎖を断ち切るためにも、区行政は親の目線で、親の思いを大切にしながら立案するべきであり、区民の目線に立った利便性の向上と、イメージしやすい地域名称での楽しい街づくり、公衆喫煙所設置で見られるように、都や民間企業の予算を最大限活用し、予算配分をするよう求める。